

- ◆ 第三次箕面市子どもプランでは、「子どもが幸福に暮らせるまちづくり」の基本理念の実現に向け、4つの基本目標を掲げ、その目標の達成に資する8つの施策体系を基本に事業を展開しています。
- ◆ 本会議においては、その8つの施策体系のなかから、今年度特に市が力を入れてとりくんでいるものを取りあげ、プランの進捗を確認します。

平成27年度～平成28年度の重点施策

施策体系1. 家庭・地域における子育て環境の充実

《取組の方向性》

- ◆ 子育て世代が、子育ての不安や悩みをひとりで抱え込むことがないように、「待つ支援」ではなく、「出向く支援」を進め、市から積極的に情報発信するとともに、気軽に相談できる機会と環境を整える。
- ◆ 子育て中の親子が、地域社会や同年代の子どもをもつ保護者とつながることができるよう、仲間づくり、居場所づくりを進める。
- ◆ 発達支援を必要とする子どもに対しては、子どもがのびのびと育ち、保護者が安心して子育てできるよう、きめ細かい支援を子どもの成長段階で途切れることなく実施する。

《特徴的な取組》

子育て支援と外出促進〈施策体系1-1〉

- ◆ 子育て支援と母子保健の一体化をはかるため、乳幼児を中心とした子どもに係る保健業務について教育委員会に移管するとともに、当該業務を担う「子どもすこやか室」を設置
- ◆ 出張子育てひろばの拡大、地域の子育てサロンとの連携
- ◆ 公共施設における「キッズコーナー」の設置

施策体系3. 子育て世代に対する労働環境の整備

《取組の方向性》

- ◆ 保護者が仕事や社会参加等と子育てのバランスを保つことができるよう保護者が働きやすい環境を整備する。
- ◆ 男女が協力して子育てや家庭づくりをするという意識を醸成する。
- ◆ 子どもたちが生まれ育った環境によって左右されることがないように、貧困状況にある家庭の子どもが健やかに育成される環境を整備するとともに、乳幼児期～高校卒業の時期に至るまで、切れ目ない支援を行い、就学・社会的自立につなげる。

《特徴的な取組》

子どもの貧困の連鎖の根絶〈施策体系3-3〉

- ◆ 平成28年4月に子どもの貧困の連鎖の根絶に向けた総合的な施策を推進する「子ども成長見守り室」を設置
- ◆ 箕面市における子どもの貧困実態調査を実施中

施策体系6. 教育の充実と開かれた学校づくり

《取組の方向性》

- ◆ 確かな学力と豊かな心の育成、健康・体力の向上に向け、児童一人ひとりに応じたきめ細かい教育の充実を図る。
- ◆ 小中一貫教育の推進やICT教育環境の充実、英語教育の推進を図る。
- ◆ 学校が保護者や地域から信頼され、連携して教育環境を整えることができるよう、地域に開かれた学校づくりを推進する。

《特徴的な取組》

英語教育の充実〈施策体系6-1〉

- ◆ 市立小学校の全学年において英語教育を毎日実施。中学校の英語教育における授業時間の増。公立幼稚園・公立保育所における英語教育の実施。
- ◆ 中学校への英語指導助手の配置及び英語教育支援員の市内小学校の巡回による授業改善
- ◆ 箕面市独自のカリキュラム「エンジョイ イングリッシュ」の策定
- ◆ 箕面市国際交流協会との連携による多文化理解プログラムの推進

いじめ防止対策〈施策体系6-3〉

- ◆ 「箕面市いじめ防止基本方針」「学校いじめ基本方針」の策定及びいじめ対応マニュアルの活用
- ◆ アンケート調査による実態把握調査
- ◆ 専用相談電話「いじめ・体罰ホットライン」の設置
- ◆ 生徒を中心とした「いじめ防止に係る箕面市中学校生徒会学習会」の実施

- 公共施設における「キッズコーナー」については、平成27年度までに7箇所設置しました。

* 「キッズコーナー」は、小さなお子さまでも安全に過ごせるよう床マットを敷き、絵本等を置いたスペースです。授乳室やおむつ交換室も備えています。

* 設置場所は、市役所本庁、豊川支所、小野原多世代地域交流センター、小野原多文化交流センター、中央図書館、第一総合運動場、ライフプラザです。

- 「出張子育て広場」を拡大しました。

(H27年度：109回、H28年度：132回予定) ※小野原・彩都・森町地区で重点的に開催

* 「出張子育て広場」は、子育て支援センターの保育士等が、たくさんのおもちゃを持って地域に出向き、ゆっくり遊んだり、お話ししたりしていただける場を提供する取り組みです。

子育ての相談も受け付けています。

- 母子保健事業を担う「子どもすこやか室」を教育委員会に設置することにより、妊娠・出産～子育てに係る支援や相談の実施体制を一体化させました。



● 一体化の効果

- ・ 子育てに関する窓口がワンフロアになり、市民サービスが向上
- ・ 子育て支援センター、子どもすこやか室が実施するそれぞれのイベント等に職員を相互派遣

今後の取組

- イベント等への職員相互派遣にとどまらず、保育士・保健師が一体となってイベントを企画運営できる体制をめざします。
- これまでバラバラに提供していた育児情報を、妊娠～就学までの各タイミングごとに冊子にまとめ、保護者が「なにをいつ、どうすればよいか」が分かりやすいように情報提供していきます。
- 公園における乳幼児向け遊具コーナーの整備について、公園の整備計画策定にあわせて検討を進めます。

〔参考〕出張子育て広場実施回数

実施場所	平成27年度 (実績)	平成28年度 (予定)
新稲会館	9	11
西南図書館	11	12
桜ヶ丘ヒューマンズプラザ	9	10
東生涯学習センター	11	12
四中開放教室	0	4
多世代地域交流センター	12	12
多文化交流センター	8	12
CUBE3110	11	12
彩都小コミセン天空の家	19	23
とどろみの森学園	13	17
森町地区センター	5	6
森町自治会館	1	1
合計	109	132

貧困の連鎖の根絶について

■平成28年4月に「子ども成長見守り室」を設置しました。

■「箕面市における子どもの貧困実態調査」を実施中です。※平成29年3月結果公表

→「子どもの実態把握調査」と「地域資源調査」の二本立てで行っています。
(大阪府立大学山野則子研究室に委託)

子どもの実態把握調査

子どもの家庭環境と「箕面子どもステップアップ調査」(H25~27)の結果の関連を分析します。

家庭環境

- ・生活保護受給状況
- ・児童扶養手当受給状況
- ・虐待相談、保健指導相談の有無 など



学力・体力



地域資源調査 (学校等への聞き取り)

学校や関係機関が連携し、地域で協力しながら子どもたちを支援できているかどうか、その支援の内容・頻度・手法等が十分かつ効果的かどうかを調査します。

【ヒアリング対象】

- ・各小中学校 ・幼稚園や保育所 (一部)
- ・関係機関
(社協、NPO法人あっとすくーる、暮らしづくりネットワーク北芝、国際交流協会)
- ・子育て支援センター
- ・青少年指導センター
- ・スクールソーシャルワーカー
- ・スクールカウンセラー
- ・母子自立支援員、保健師 など

【ヒアリング内容】

- ・対象となる子どもや家庭への支援体制
- ・ケース会議等の開催頻度や参加メンバー
- ・関係機関との連携における課題
- ・支援がうまくいった事例、そうでない事例

今後の取組

■「子ども成長見守りシステム」の構築 (文部科学省 実証研究事業)

- ・見守りが必要な子どもを特定し、その状況変化を捉え、早期に支援を開始し、その支援による効果を長期にわたって分析するためのデータベースシステムの構築を平成29年4月の稼働に向けて進めています。

■その他、実態調査結果の活用

- ・既存施策の拡充や新規施策の提案を行います。
- ・地域資源調査で明らかになった支援の成功例等をもとに、支援体制の見直し・構築を行います。

9月から、外国人の英語指導助手を20人から34人に大幅増員！ 小・中学校の全クラスで週1回以上、 外国人の英語指導助手が授業に入ります！

国では平成32年度から、小学3年生からの英語の授業をスタートし、中学校では英語の授業は英語で行う(オールイングリッシュ)などが検討されています。

箕面市ではこれに先駆け、昨年からは、小学1年生から中学3年生まで、毎日英語の授業を実施するとともに、市立小・中学校の全校に外国人の英語指導助手を配置しています。



そして9月から、外国人の英語指導助手を20人から34人に増員し、小・中学校の全クラスで週1回以上、英語指導助手が授業に入ります。また、この増員により、子どもたちが英語指導助手と触れ合う機会も、中学校で2倍、小学校で1.5倍に増えます。英語の授業に限らず、休み時間や給食の時間など、学校生活のさまざまな場面で英語指導助手と触れ合うことにより、子どもたちは自然と英語に親しみを持つようになります。少しでも早い時期から、毎日英語に触れ、慣れ親しむことで、英語でのコミュニケーション力を身に付けることをめざします。

英語指導助手がサポート 子どもたちが自然に英語に親しめ、学べるカリキュラムを毎日実施!

小学1・2年生 英語の音に初めて触れて、親しむ

箕面市のオリジナルDVD教材を使い、簡単な単語でできた歌を歌ったり、英語を使ったジャンケンなどのゲームをしています。

小学3・4年生 英語を使って遊び、楽しむ

アルファベットや簡単な単語を使ったカルタや、インタビューゲームなどを行っています。

小学5・6年生 英語で気持ちを伝えたり、相手のことを知る

友達や英語指導助手と、簡単な英語でコミュニケーションをはかっています。

中学生 英語で自分の考えを表現する

英語でスピーチやプレゼンテーションをする授業や、オールイングリッシュの授業を行っています。

小学生の約9割が「英語が楽しい!」と感じています!

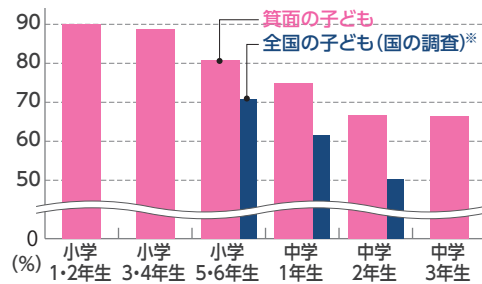
一方、学年が上がるにつれて、英語が苦手と感じる子どもが多くなります。

全市立小・中学校の児童・生徒を対象に行った6月の「箕面子どもステップアップ調査」で、【英語は楽しいですか?】という質問に対して、小学生で約9割、中学生で約7割が楽しいと回答し、箕面の子どもは、全国の子どもと比べて、英語が楽しいと感じていることが分かりました。

一方、全国の子どもと同じように、箕面の子どもも、学年が上がるにつれて、英語が楽しいと感じている割合が下がることが分かりました。

箕面市では、早い時期から、毎日英語に触れ、慣れ親しむことで、子どもたちの苦手意識を解消できるよう取り組んでいます。

■「英語が楽しい!」と感じている小・中学生の割合



※国の調査は、小学5年～中学2年生を対象に実施されています。

子どもたちがもっと英語でのコミュニケーションができるよう、 市立小・中学校の全校に英語指導助手を配置しています!

英語指導助手が、常に学校内にいて、 子どもの学校生活に関わっています

英語の授業はもちろん、英語以外の授業もサポートしています。さらに、マリンスクールや遠足などの行事にも参加し、学校生活のさまざまな場面で子どもたちと英語でコミュニケーションをとっています。



東小学校 レイン先生
マリンスクールに参加して
シーツ係を担当。必要なシーツの枚数を英語で確認



箕面小学校 ティム先生
ライフセイバーの資格を生かして水泳の授業をサポート



南小学校 ブリジット先生
遠足に参加して、生徒たちと英語でコミュニケーション

子どもたちの英語に対する苦手意識を解消し、英語でのコミュニケーション力を育みます!

箕面市では、子どもたちが少しでも早い時期から、毎日英語に触れ、慣れ親しむことで、英語に対する苦手意識を解消できるよう取り組んでいます。さらに、小学校で初めて英語に出会う子どもたちが「英語って楽しいな」と思い続けられるような授業を行うとともに、授業以外の時間でも外国人の英語指導助手と子どもとの関わりを増やし、英語でのコミュニケーション力を育みます。

また、英語指導助手は、地域のさまざまな行事に参加して、日本の文化に親しみ、子どもたちと英語でコミュニケーションをとっていきます。地域でお祭りやイベントなどを開催される際には、ぜひ英語指導助手にもお声かけください。詳しくは、お住まいの地域の各学校へお問い合わせください。

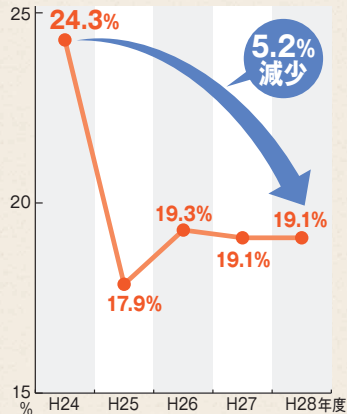
「いじめゼロ」の実現に向けて

教育委員会は、「いじめゼロ」の実現に向けて、いじめの未然防止と早期発見、早期対応に全力で取り組んでいます。最近では携帯電話やパソコンから、通信アプリなどのSNSに悪口を書かれるといった、インターネット上のいじめが全国的に増えており、市でもこれらに対するさまざまな取り組みを行っています。

10月に行ったアンケート調査では (小・中学校の全児童・生徒対象)

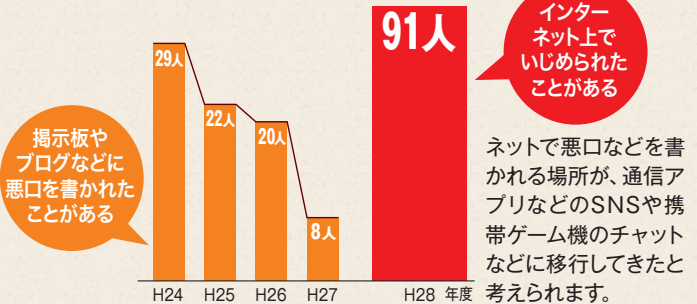
約5人に1人が「いじめられた」と感じています

「いじめられた」と感じている子どもの割合は、昨年と比べて横ばいですが、調査を開始した平成24年と比較すると、5.2%減少しています。しかし、依然として約5人に1人の子どもが「いじめられた」と感じているという事実を重く受け止め、今後さらに、いじめの早期発見・早期対応に全力で取り組みます。



インターネット上でいじめられたことがある 子どもの数は91人にのびりました

平成24年から昨年度までの調査で、「掲示板やブログなどに悪口を書かれたことがある」と答えた子どもの数は、3年連続で減少しました。しかし、今年度の調査から、質問の範囲をネットでのいじめ全般に広げたところ、「いじめられたことがある」と答えた子どもの数は91人に増加しました。



インターネット上でいじめられたことがある

掲示板やブログなどに悪口を書かれたことがある

ネットで悪口などを書かれる場所が、通信アプリなどのSNSや携帯ゲーム機のチャットなどに移行してきたと考えられます。

市では、警察や携帯電話会社のかたを講師に迎えたネットトラブル防止教室を始め、いじめをテーマにした生徒会学習会を実施するなど、インターネット上のいじめを未然に防ぐ取り組みを進めています。

教育委員会では、いじめをさらに減らすため、 早期発見・早期対応に 全力で取り組み、「いじめゼロ」の実現をめざします。

いじめについてのアンケートを実施

毎学期、記名アンケートを行い、その時点でいじめを訴えている子どもに対して、担任がいじめが解決するまで相談を繰り返し行います。さらに年1回、無記名アンケートも行い、発見が難しいインターネット上のいじめなどの早期発見と早期対応に努めています。

生活指導、生徒指導の教員を配置

生活指導、生徒指導の教員を小学校6校と全市立中学校に配置し、専門的に子どもたちに向き合える体制を作っています。インターネット上のいじめにも対応できるよう、生活指導、生徒指導の教員だけでなく、全教員にも研修を実施しています。

いじめ相談週間を設置

全市立中学校で、年に2回以上、担任が子ども一人ひとりから話を聞き、いじめについて話し合う時間を設けています。

いじめや体罰について誰にも相談できずに悩んでいるなら
子どものための
「箕面市いじめ・体罰ホットライン」へ
727・5233 月～金曜日 午前9時～午後5時
※祝日、12月29日～1月3日を除く
市内の小・中学校の児童・生徒から、いじめや体罰に関する相談を受け付けています
専門家が「心のケア」を行い、相談内容には教育委員会も早期に対応し、責任を持って解決に取り組めます。
※保護者からの相談や、地域のかたなどからのいじめや体罰に関する情報も受け付けています。

保護者のみなさんへ 「いじめゼロ」の実現には、 ご家庭での協力も不可欠です!

早期発見のためには、ご家庭でも子どものいじめのサインを見逃さないことが大切です。わずかないじめのサインにも気付くことができる「SOS!いじめチェック」を、ご家庭で学期に1回は確認して、チェックが1つでもあればすぐに「学校」へ相談してください。

☑ SOS!いじめチェック

携帯電話やスマートフォンで…

- 電話やメールの着信音におびえる
- メールやブログをよけに気にしている
- 深夜や、人目を避けて電話やメールをすることが増えている

友達付き合いで…

- 家に閉じこもりがちになった
- 不自然(急)な外出が増えている
- 「転校したい」「部活を辞めたい」と言う
- 友達からの電話に出ない

表情で…

- 表情が暗い
- よく考えごとをしている
- おどおどしている
- ため息をつく
- 食欲が無い

言動で…

- 学校や友達のことを話さなくなった
- 登校したがる
- 自分を否定する言葉を言う
- 感情に波がある
- 学習意欲が下がった

服装・持ち物で…

- 衣服や持ち物に汚れ、破損がある
- お金の使い方が荒くなった
- お金の使い道を言わない
- 持ち物が無くなる